

# 物理数学3 homework10 2014/1/19

## 1 スカラー・擬スカラー・ベクトル・擬ベクトル

3次元実空間  $\mathbb{R}^3$  上で定義された0形式  $\omega_0 = f_0(\mathbf{x})$ 、1形式  $\omega_1 = f_1^x(\mathbf{x})dx + f_1^y(\mathbf{x})dy + f_1^z(\mathbf{x})dz$ 、2形式  $\omega_2 = f_2^z(\mathbf{x})dx \wedge dy + f_2^x(\mathbf{x})dy \wedge dz + f_2^y(\mathbf{x})dz \wedge dx$ 、3形式  $\omega_3 = f_3(\mathbf{x})dx \wedge dy \wedge dz$  を考える。 $\mathbf{f}_1(\mathbf{x}) = (f_1^x(\mathbf{x}), f_1^y(\mathbf{x}), f_1^z(\mathbf{x}))$ 、 $\mathbf{f}_2(\mathbf{x}) = (f_2^x(\mathbf{x}), f_2^y(\mathbf{x}), f_2^z(\mathbf{x}))$  とおく。

- (1) 座標の回転  $y_i = R_{ij}x_j$  ( $R_{ij}$  は回転行列) に対する  $f_0, \mathbf{f}_1, \mathbf{f}_2, f_3$  の変換性を答え、これらがスカラーあるいはベクトルとして変化することを示せ。
- (2) パリティ変換  $\mathbf{x} \rightarrow -\mathbf{x}$  に対する  $f_0, \mathbf{f}_1, \mathbf{f}_2, f_3$  の変換性を答え、前問と合わせてそれぞれの変換性をスカラー、擬スカラー、ベクトル、擬ベクトルのいずれかに分類せよ。
- (3) 上と同様に一般の  $n$  次元空間  $\mathbb{R}^n$  上の0形式、1形式、 $n-1$ 形式、 $n$ 形式を用いて  $n$ 次元空間上のスカラー、擬スカラー、ベクトル、擬ベクトルが構成せよ。擬スカラーと擬ベクトルが構成できるための  $n$  の条件は何か。

## 2 ベクトル解析の計算

- (1)  $f = \arctan\left(\frac{y}{x}\right)$  に対して、その微分  $df$  を求めよ。また、1形式  $df$  に対応するベクトル場を  $(x, y)$  面内にプロットせよ。 $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$  と置くと  $df$  は  $(r, \theta)$  の関数としてどのように書かれるか。 $df$  の表すベクトル場の物理的意味を答えよ。
- (2) 静電場  $\mathbf{E}$  はポテンシャル  $\phi$  を用いて、 $\mathbf{E} = \text{grad}\phi$  と書くことができる。一様電場  $\mathbf{E} = (Ex, Ey, Ez)$  を与えるポテンシャルを一つ上げよ。また、ポテンシャルにはどの程度の不定性があるか。
- (3) 静磁場  $\mathbf{B}$  はベクトルポテンシャル  $\mathbf{A}$  を用いて、 $\mathbf{B} = \text{rot}\mathbf{A}$  と書くことができる。一様磁場  $\mathbf{B} = (0, 0, B)$  を与えるベクトルポテンシャルを一つ上げよ。また、ベクトルポテンシャルにはどの程度の不定性があるか。
- (4)  $\hat{x}, \hat{y}, \hat{z}$  を  $x, y, z$  方向の単位ベクトルとし、 $\mathbf{r} = x\hat{x} + y\hat{y} + z\hat{z}, r = |\mathbf{r}|$  とする。関数  $f(\mathbf{r}) = f_1(r), \mathbf{g}(\mathbf{r}) = f_2(r)\mathbf{r}$  に対して、 $\text{grad}f, \text{rot}\mathbf{g}, \text{div}\mathbf{g}$  を求めよ。